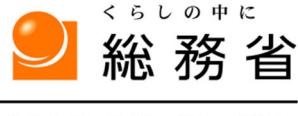


報道資料



令和7年12月10日

「第10回JET地域国際化塾」の開催

総務省は、長崎県との共催により、下記のとおり「第10回JET地域国際化塾」を開催します。

1 背景・目的

本事業は、JETプログラム（※）において招致した外国青年が、長崎県内で活躍する地域おこし協力隊等の地域づくり関係者と車座（意見交換）を実施し、地域づくりの優良事例を学ぶとともに、視察や体験を通じて地域活動への理解や関心を深めることで、地域の国際化に資する取組への参画を促すものです。

また、地域づくり関係者においても、JET青年から得られた新たな視点を踏まえ、更なる地域活性化に資する取組を推進することを目的としています。

※JET プログラム：外国青年を招致して地方公共団体等で任用し、外国語教育の充実や地域の国際交流の推進を図る、世界最大規模の人的交流プログラム。昭和62年以降、累計で82か国から約8万人を招致している。

2 日程及び場所 日程 令和7年12月17日（水）～12月19日（金）
 場所 長崎県（長崎市、大村市、波佐見町、西海市）

3 参加者 JETプログラムに参加している外国青年
 地方自治体・地域づくり関係者 約80名

4 主催 総務省・長崎県

〈参考：過去の開催実績〉

第1回（石川県 平成27年10月）、第2回（茨城県 平成29年10月）、
第3回（青森県 平成30年11月）、第4回（宮崎県 令和元年10月）、
第5回（鳥取県 令和2年12月）、第6回（兵庫県 令和3年10月）
第7回（福井県 令和4年10月）、第8回（山梨県 令和5年11月）
第9回（福島県 令和6年12月）

〈添付資料〉第10回JET地域国際化塾（長崎県）の開催

（参考）第9回JET地域国際化塾（福島県）について（R6.12月実施）

連絡先
自治行政局国際室
担当：原参事官補佐、くわいた棄田主査、中村事務官
電話：03-5253-5527（直通）

第10回 JET地域国際化塾（長崎県）の開催

開催概要

- 日 程：令和7年（2025年）12月17日（水）～12月19日（金）
- 参加者：JETプログラムに参加している外国青年
地方自治体・地域づくり関係者 約80名
- 主 催：総務省・長崎県
- テーマ：被爆80年の節目の年に長崎で学ぶ地域づくり

実施内容

● 1日目 被爆体験講話・平和に関するワークショップ

被爆体験講話：三瀬 清一朗 氏

ワークショップ：一般社団法人Peace Education Lab Nagasaki 代表理事 林田 光弘 氏

● 2日目 地域おこし協力隊等の地域づくり関係者が活動する地域での現地視察・意見交換

○主な視察先（大村・波佐見エリア、西海エリアの2つのグループで、地域おこし協力隊経験者等が活動する地域活性化の現場を体感）

- おおむら夢ファーム シュシュ：「令和5年度ふるさとづくり大賞」内閣総理大臣賞を受賞した実績や、
地域農業の活性化と後継者育成、地域振興について意見交換
- くらわん館：波佐見町の伝統工芸である波佐見焼の絵付けの体験や地域おこし協力隊員との意見交換
- 音浴博物館：廃校になった小学校分校の校舎を活用した全国的に珍しい「レコード」に着目した
博物館視察や地域おこし協力隊員との意見交換
- 雪浦地区：まち歩きを行い、川添酢造の視察など地域一体となって行っている取り組みを視察



現地視察・意見交換のイメージ

● 3日目 JET青年によるグループワーク・発表

○ 現場視察や長崎県で活動する地域おこし協力隊経験者等の地域の活性化の取組と情報発信の手法を学んだ上で、グループで意見交換・発表を実施。

ファシリテーター：株式会社つくるのわデザイン 代表取締役 岩本 諭 氏



(参考) 第9回JET地域国際化塾（福島県）について（R6.12月実施）

福島県でのJET地域国際化塾の概要（令和6年度12月実施）

<1日目：福島県における地域活動に関する事例発表>

- 福島県 内堀 雅雄 知事から、復興・復旧の歩みや、複合災害（地震・津波・原子力災害）の教訓等から「持続可能な社会・地域づくり研究・創造する」福島オントーワンの新しいスタディープログラムなどの取組についてのご挨拶（ビデオメッセージ）や、地域づくり関係者から事例発表、意見交換を行い、JET青年の地域活動に対する関心を喚起。

高橋 大就氏（一般社団法人 N o M A ラボ 代表理事）

「Why FUKUSHIMA coastal are is the most exciting now?」
(なぜ今、福島県浜通り地域が一番あついのか？) をテーマに、新たな価値の創出についての取組や
インバウンドの需要喚起などについて、海外への情報発信や取り組みについて講演



内堀 雅雄 福島県知事のご挨拶



高橋 大就氏の講演の様子



地域づくり関係者から話を聞くJET青年



和紙の伝統技術を学ぶJET青年

<2日目：地域おこし協力隊等の地域づくり関係者が活動する地域での現場視察・意見交換>

- 地域おこし協力隊をはじめとした地域づくり関係者が活動する現場を視察するとともに、地域の文化や伝統産業を継承させるための取組を体験し、車座（意見交換）を通じて、地域の魅力を理解
(主な視察先：酒造りの担い手育成、地元木材を活用した地域活性化方策、伝統的な製紙技術の未来への継承活動 等)

<3日目：事例発表と現地視察を踏まえた成果発表>

- 地域の魅力、地域を更に発展させる取組などについて、JET青年同士でグループディスカッション
- 各グループの発表に対して地域づくり関係者からの講評を行い、JET青年の地域活動に対する理解を深化させることで、JET青年による地域活動への取組を促進

JET青年の地域活動への参画について（JET地域国際化塾の参加者へのアンケート）

- 地域の魅力について、海外在住の家族や国内外の知人（外国人）に対して、SNSを使ってPRする。
- JET参加者は、外国語授業以外に、地域活性化や文化振興などの様々な地域活動に携わることができることを認識。
- 今回の知見・経験を勤務する学校の生徒にも共有し、地域での活動や文化について学ぶ学習を実施する予定。
- JETプログラム終了後も福島県に残って地域活性化の力になれるような活動をしたい。



グループワークの様子